

膵がんテーマに講演

黄疸の治療が重要

製鉄記念室蘭病院を治療するために黄疸おうだん（前田征洋病院長）のをコントロールする大「第40回市民公開がん切さや、超音波内視鏡セミナー」が25日、室を用いた最新の治療法蘭市知利別町の同病院などについて理解を深がん診療センターで開めた。

同病院の小野道洋消 小野主任医長は、膵がんが新しい抗がん剤の登場や術前治療の応



膵がん治療のための黄疸をコントロールする大切さなどを説明する小野消化器内科主任医長

製鉄室蘭病院市民公開セミナー

用などで、治療成績の改善が期待されている現状を紹介。「安全に抗がん剤を用いるには、体調を整えることが必要。黄疸の発症が多いため、この黄疸をどうコントロールするか。非常に大切」と強調した。

その上で「黄疸の治療なくして、膵がんの治療はない」とし、黄疸に対する治療法の一つ・超音波内視鏡下胆道ドレナージ（EUS-IBD）は「手技が難しく、道内でも（製鉄記念室蘭病院を含む）数カ所しか行っていないが、副作用に対する効果もある」と述べた。約60人の市民が真剣に耳を傾けていた。

（松岡秀宜）